

番 号	14 請願第 17 号 (総務付託)
受理年月日	平成 14 年 12 月 11 日
件 名	政府に「平和の意見書」の提出を求めることについて
提 出 者	ひばりが丘「地球村」 代表 田辺 妃登美 伊藤 啓子 浦 美樹子
紹介議員	杉本 英騎
要 旨	
〔請願要旨〕 「唯一の被爆国である日本が、中立国として、平和的解決に貢献する」ということを日本の基本姿勢としていただく「平和の意見書」を政府に提出してください。	
〔請願理由〕 今、アフリカや中東など、世界の各地で戦争や紛争が続いています。 あらゆる争いごとは武力で根本的に解決できるのでしょうか。 この 100 年で国家によって殺された人の数は、約 2 億人にのぼると言われています (約 2 億人のうち、兵士の死者は 7,000 万人、残りの 1 億 3,000 万人は一般市民)。 武力での解決は、お互いに傷つき、憎しみを増幅させ、新たな争いを引き起こします。直接戦う双方の兵士はもちろん、子どもたち、女性たち、老人たちは、自らを守るすべもなく、無残に殺傷されます。生き延びても心に深い傷を負い、癒すことは難しい。 豊かな土地も、一たびの戦いで、荒れ果てた不毛の地になり、長い年月をかけても、もとは戻りません。川も枯れ、雨も降らなくなります。 20 世紀は、2 つの世界大戦をはじめ、「戦争の時代」とでも言うべき戦争や紛争が続いた時代でした。先のアフガニスタン空爆、10 年前の湾岸戦争、20 年前のレバノン・グレナダ・リビア紛争、30～40 年前のベトナム戦争、50 年前の朝鮮戦争。どれも平和とは言えない結果と不幸な後遺症を残しました。	

爆撃がもたらしたものは、多くの市民の死。すでに飢餓で苦しんでいた数百万人への援助物資の中断。そして餓死。

劣化ウラン弾や枯葉剤は長年に渡って命を奪い続けます。新しく生まれた生命までも。

これが平和につながるのでしょうか。

日本は核兵器で被爆した、唯一の国です。

これからも、永久に親や子や愛する人を失いたくない、悲しい思いをしたくない、誰にもさせたくない、平和に幸せに生きたい、と切に願っています。

21世紀を、日本のリードで、「世界平和の時代」にすることを切に、願っています。

貴議会において、「唯一の被爆国である日本が、中立国として、平和的解決に貢献する」ということを、日本の基本姿勢としていただくことを採択くださり、これを「平和の意見書」として、政府に提出して下さるようお願い申し上げます。